

沖縄県から新たに発見された外来イネ科植物、
ホウキヌカキビ *Panicum scoparium* Lam.

茨木 靖¹・横田昌嗣²・木場英久³

[Yasushi Ibaragi¹, Masatsugu Yokota² and Hidehisa Koba³: Notes on newly found naturalized plants,
Panicum scoparium Lam., in Okinawa Prefecture, Japan]

キーワード: *Dichantherium*, 外来生物, 法面緑化

A newly naturalized alien plant, *Panicum scoparium* Lam. in Okinawa Prefecture is reported. This grass grows on a bank in a subtropical forest of Ada, Kunigami-son. This grass might have been brought with other plants for the purpose of greening the bank.

沖縄県初記録となるホウキヌカキビ *Panicum scoparium* Lam. (= *Dichantherium scoparium* (Lam.) Gould) の生息が明らかとなったので、産地・生育状況などを報告する。北琉球以南において同属の植物は、ヌカキビ *P. bisulcatum* Thunb., ハナクサキビ *P. capillare* L., オオクサキビ *P. dichotomiflorum* Michx., ギネアキビ *P. maximum* Jacq., ハイキビ *P. repens* L., オオヌカキビ *P. paludosum* Roxb., そしてキビ *P. miliaceum* L. が記録されているが、これまでホウキヌカキビの記録はない(沖縄生物教育研究会, 1959; 初島・天野, 1994; 初島, 1975, 1991; 島袋, 1997; 堀田, 2013; 水野ら, 2017)。

ホウキヌカキビは、北アメリカ原産のキビ属の多年生草本で、ケヌカキビまたは Velvety panic grass などとも呼ばれ、その名の通り全体に開出する毛を密生することが、目立った特徴とされる (Hitchcock 1950; 図 1)。草丈は 1 m に達し、春から夏にかけては枝が少ないが、秋になると上部の葉腋から多数の小枝を出し、小型の葉をつける。稈は毛に覆われるが、節の直下には輪状に腺があり、この部分には毛がない (図 2)。また、茎の上部や葉鞘にも所々に腺がみられる。葉身は長さ 5-15 cm ほどで、幅広く 10-15 mm、葉縁には基部が膨れた毛が生える。根生葉は茎葉よりもやや短い。小穂は倒卵形で先は急に尖り、2-2.5 mm 長で有毛である (図 3)。

同属で日本にも帰化しているニコゲヌカキビ (*P.*

lanuginosum Eil.) も春と秋では草姿が異なるなどの点で類似しているが、葉鞘や稈の上部に腺があることなどで区別できる (勝山, 2003)。

本種は、1977 年頃にはすでに京都府宮津市で確認されており (清水ら, 2001)、その後、茨城・神奈川・兵庫・岡山・愛媛・徳島の各県からも生育が報告されている (勝山, 2003; 茨木ら, 2004)。

著者のひとり茨木は、2018 年 5 月に沖縄県国頭郡国頭村安田の県道 2 号線、与那安田横断道路に連なる広域基幹林道奥与那線の法面上に、この植物が生育しているのを発見し採集した。同地の環境からみて、法面への吹きつけ種子に伴って侵入したものと思われる。生育地の環境は、やや開けた林縁で、工事が行われてから時間が経っているためか、周辺の植生が回復しつつあるようであった。本種は、他県の生育地などでも道路法面などで見つかっており (茨木ら, 2004)、道路工事に伴う侵入が多いようである。今後、本種が沖縄県内で広く確認される可能性があるため注意が必要である。

標本: 沖縄県国頭郡国頭村字安田、照首山西面、広域基幹林道奥与那線法面上 West side of Mt. Terukubi, Ada, Kunigami-son, Okinawa Pref., Ryukyu, Japan. (茨木靖・志津・八尋・千速, Y.Ibaragi et al. 260518001 TKPM, BSP-086416)

2018 年 12 月 26 日受付, 12 月 26 日受理。

¹ 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園, Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori park, Hachiman-chô, Tokushima city, Tokushima, 770-8070 Japan.

² 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系, Laboratory of Ecology and Systematics, Faculty of Science, University of the Ryukyus, Senbaru 1, Nishihara, Okinawa 903-0213, Japan.

³ 桜美林大学, 〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758, J.F.Oberlin University: 3758 Tokiwa-machi, Machida-shi, Tokyo 194-0294, Japan.

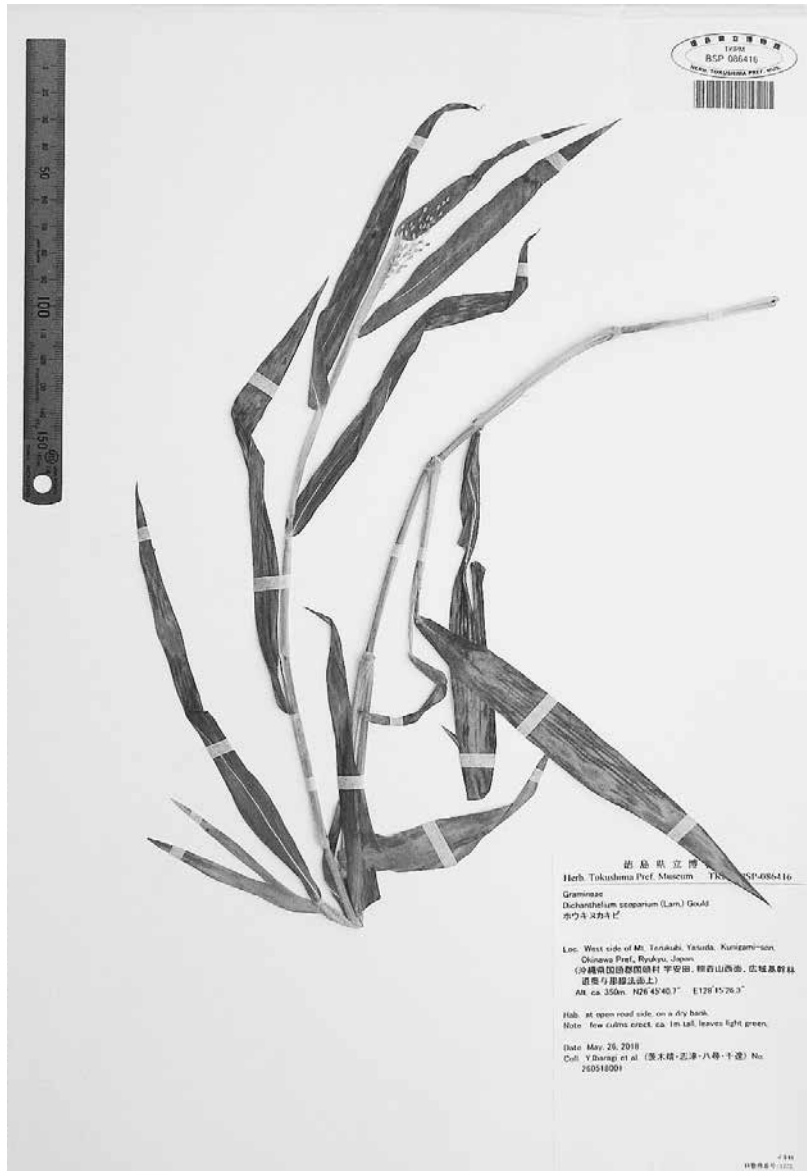


図1. ホウキヌカキビ (沖縄県国頭郡国頭村字安田, 照首山西面, 広域基幹林道奥与那線法面上, 茨木靖・志津・八尋・千速 260518001, TKPM BSP-086416).

謝 辞

本稿作成にあたり, 東京大学総合研究博物館および国立科学博物館のスタッフの皆様には標本の閲覧に際し, 便宜を図っていただいた。ここに記して謝意を表します。

引用文献

- 初島住彦. 1975. 琉球植物誌 (追加・訂正版). 1002p. 沖縄生物教育研究会, 那覇.
- 初島住彦. 1991. 北琉球の植物. 257p. 朝日印刷, 鹿児島.
- 初島住彦・天野鉄夫. 1994. 琉球植物目録. 増補訂正. 393p. 沖縄生物学会, 西原町.
- Hitchcock, A. S. 1950. Manual of the grasses of the United States. 2nd ed. 1051p. United States Government printing office, Washington.
- 堀田 満. 2013. 奄美群島植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 (6): 1-279.
- 茨木 靖・木内和美・斎藤 正. 2004. 徳島県から新たに発見された帰化植物3種: アレチレンギョソウ, ニセアゼガヤ, ホウキヌカキビ. 徳島県立博物館研究報告 (14): 133-135.
- 勝山輝男. 2003. キビ連. 清水建美編 日本の帰化植物. p.279-289. 平凡社, 東京.
- 水野 拓・高山正裕・阿部篤志. 2017. 沖縄島における絶滅危惧種オオヌカキビ (イネ科) の新記録. 沖縄生物学会誌 (55): 39-41.
- 沖縄生物教育研究会. 1959. 沖縄植物目録. 176p. 沖

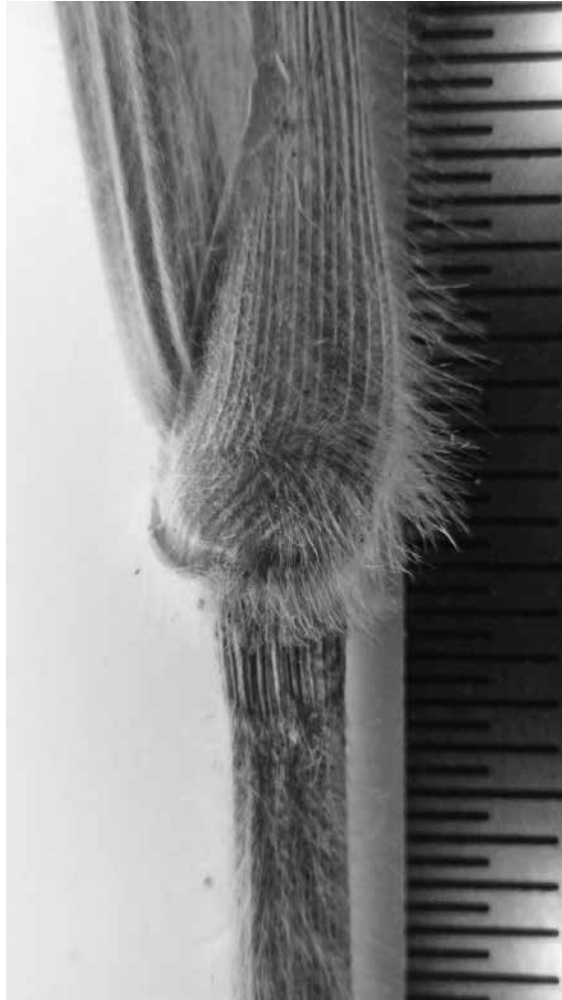


図2. 節直下の腺. 腺の部分には毛がないのがわかる. スケールの目盛りは1 mm.



図3. 花序の一部. スケールの目盛りは0.5 mm.

- 縄生物教育研究会, 那覇.
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七. 2001. 日本帰化植物写真図鑑 555p. 全国農村教育協会, 東京.
- 島袋敬一. 1997. 琉球列島維管束植物収覧. 改訂版. 855p. 九州大学出版会, 福岡.